



森の息吹

No.134 6月号

2017.5.28 発行

編集代表：五賀利雄

0133-26-3738

5月の活動報告

里山林施業は植樹／140年の森は下草刈り

5月7日(日) 協働の森の会 植樹と山菜リスト作成の打合せ 参加者11名 天候 晴れ



協働の森の会では国からの助成を受けた里山林づくりの活動がさらに3年間、継続可能となりました。これを受けて今年度最初の活動は新たな山林地域にミズナラ150本の植樹を行うことにしました。キョウドウ事務所内で育てた苗木を掘り起し根切りして植え替えます。植樹作業は2m間隔で植え込んでいきましたが参加者多数で1時間ほどで終了しました。

※翌日は午前中にかなり雨が降り根付いてくれることを願います。

作業後、山菜リスト作りの説明を受け、後日桜田氏が実際に山菜リストを作成されています。

(貴重な資料ですので全員に配布いたします)

5月28日(日) 140年の森&弁華別中学植樹地の下草刈り 山田倉庫前の苗場整備 参加者9名 天候 小雨模様曇り

当日は10時集合でしたが今年度初めての活動で刈り払い機の試運転などで時間を費やしました。次年度からは早目の集合を。下草刈りは2班に分かれて行いどちらの作業場も1時間ほどで終了。弁華別中学植樹地では農家の私有地を通行せねばならず住民とのトラブルが懸念され次回からは事前に行政から住民への説明が必要であると思われます。



しかし、良い事もあり弁華別でキジと遭遇しました。(裏面に関連記事を記載しました)

昼食後は山田倉庫前のミズナラなどの苗場を整備し終了となりました。(裏面に画像あり)

6月の活動案内

6月4日(日) B班 午前で終了

内容 「協働の森の会」主催による林内作業の安全講習 講師 増田氏 10:00～

集合場所 (株)キョウドウ事務所前 集合時間 9:45 持ち物 筆記用具

6月11日(日)

内容 コープ未来の森づくり植樹祭 活動場所 道民の森 神居尻地区 Fの森

集合場所と時間 9:30 山田氏倉庫前 一般参加者多数と

現地で合流します。昼食の提供あり。飲み物・軍手などの用意

6月17日(土) A班

内容 下草刈りと炭焼き炭材と燃材の切り出し

活動場所 あいの里東中学植樹地・山田山林

集合場所 山田氏倉庫前 集合時間 9:30

持ち物 腰道具・刈払機・軍手・昼食・飲み物

※欠席の方は活動日4日前までに班長に連絡を！！



当別に住み始めて今年の2月で14年が経った。最初の年の春に外構工事終了後、シンボルツリーを植えるとともに、樹木図鑑やガーデニングの本を読みながら、少しずつ庭に木や宿根草、球根類などを増やしていった。しかし、当別に住むまで庭仕事の経験がなかったため、植栽や庭全体のコーディネートに苦労し、試行錯誤の繰り返しであった。

もう亡くなられたが、アメリカ人の絵本作家・ガーデナーのターシャ・デューダーさんは、30万坪の敷地の中に世界中のガーデナーを魅了する庭づくりを90歳ぐらいまで精力的に続けられた。そして、テレビのインタビューで「庭づくりは最低でも14年はかかる」とおっしゃっていた。ターシャさんの広大な庭と比較することはできないが、最近、ターシャさんの言葉が何となくわかるような気がしてきた。



今年のゴールデンウィークに、エレガントな白花を咲かせるバイカウツギ・ベルエトワール、銅葉の低木アメリカテマリシモツケ、殿堂入りのハイブリッド・ティーのバラ、アルプス乙女などの木の植栽と昨年種から育てた宿根草のエキナセアの植え替えなどを行った。

これまで植えたいと思っていた木や花を植えられたので、非常に満足感が得られた。しかし、家を挟んで反対側の殺風景な芝生だけのエリアを、今年の秋から3年ぐらいかけて木や宿根草などに植え替えていこうと考えている。私の庭づくりはまだまだ終わらない。



コウライキジに出会いました。
野鳥の本によると農耕地ではよく見られる「里の鳥」と記してあります。
北海道には生息していなかったが狩猟鳥として放され定着したとの事。
キジは日本の国鳥で橋本郎にも登場する子供たちにも身近な存在です

**木に触れて
林で遊び
森と育つ**



編集後記

5月 私の住んでいる中小屋地区では各農家とも田植えをほぼ終えたようです。我が家の田植えも会報が出る頃には無事終了のはずです。そして、秋には自作米を食することが出来る幸せが待っています。

昨年ですが6月の140年の森での活動時に竹の花が咲いていました。非常に珍しい現象だという事でその年は異常気象になるとの言い伝えです。

実際に昨年は春先から初夏の寒さや冬場の雪の少なさから考えると竹の花は不吉であると言えそうです

もう一つ昨年10月の終わりに桜田氏とウダイカンバの森に間伐材の積み込みに出かけた時の出来事です。国道までわずかの距離の農道でクマの糞を見つけました。桜田氏は糞を広げ何を食べたか観察に余念がありませんでしたが、先ほどまで山中で材を積み込んでいた私を糞の本体がどこかで見ていたかもしれないと思うと……。

